

コラム

統計調査委員会の果たすべき役割



公益社団法人 日本防犯設備協会 統計調査委員会 委員長 齊藤 賞一
(株式会社ライコム)

「防犯設備機器に関する統計調査」を担当しているのが統計調査委員会です。調査報告も、1987(昭和62)年から会員へのアンケート方式による統計調査を、30年の長きに亘り『統計調査報告書』として会員や関係官庁などに報告し、防犯設備業界の発展と生活安全向上の社会資本整備に寄与しています。

【委員会運営の素晴らしさ】

会員から派遣されるメンバーを中心に、委員会を構成し、現在7名で活動しています。活動の場は「統計調査委員会」の月1回の会議であり、計画の進捗管理や担当業務の遂行状況を確認し、目標である年次の発行期日を遵守するために、一丸となって活動しています。

1 年次事業計画の策定

日防設の年次事業計画が打ち出され、その計画に沿って、調査研究事業の一つとして、担当し事業を進める。

①事業計画の内容

- ～活動スローガン：32年間継続と時代を反映した統計調査報告書の発行～
- ・2019年度の防犯設備機器市場動向に関する調査・研究
- ・防犯業界の正確なトレンドを示すため、2019年版 統計調査報告書の発行
- ・景気動向予測調査の継続実施
(国内及び防犯設備業界2019年度、2020年度について)
- ・独禁法「事業者団体情報活動ガイドライン」に沿った統計調査活動の実施と報告書の作成
- ・会員アンケート回答協力会社数の増大策及び新技術の分類への追加等、アンケート方法の改善検討
- ・活動報告まとめ
- ・委員の視野識見の拡大を図るため視察研修会の実施

②具体的な計画

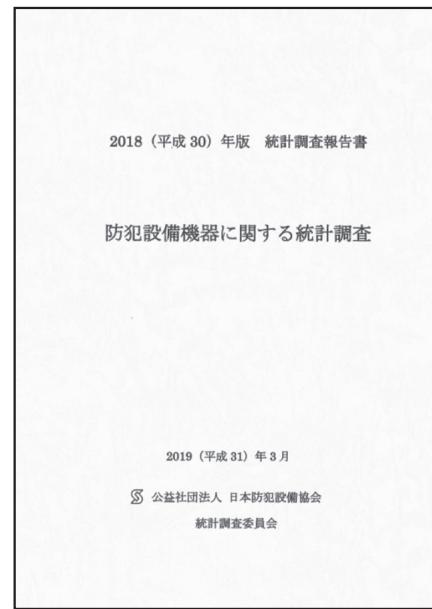
- ・会議日程配置の確認
- ・アンケート内容の検討
- ・考察の担当割り確認
- ・マスタースケジュールの確認
- ・アンケート依頼時期と回収時期の検討
- ・回収率の向上を目指す行動確認

2 客観的データに基づく客観的考察の考察

客観的データに基づき、考察は、客観的な考察を加える。

①独禁法「事業者団体情報活動ガイドライン」に沿った統計調査活動の実施

- ・回収データの保管は厳重且つ厳格に管理されている



（2018 年度 統計調査報告書）

- ・回収データは、事務局員以外は目に触れず、以降も門外不出
- ・会議室外での編集に係わる会話の厳禁…委員会、委員としての守秘義務
- ・集計データのみ提示され、そのデータを基に考察開始
- ・各年度の集計データを比較してデータの信憑性をチェック
- ・疑念が出れば、事務局に返し再調査を依頼、結果再提示される
以後、何度か納得するまで、キャッチボールを繰り返す
- ・回収状況のチェック
正会員、賛助会員別に回収状況をチェックし、回収率向上について検討する
- ・発行時期の検討
報告書が会員会社の経営計画に反映される事のないように発行時期を工夫する
※生産計画、価格決定への影響を鑑み、扱いには十分配慮する
- このようなポイントを熟知し、一枚岩で進めることが必須条件である

②委員会議論のポイント

調査の方法について議論を加え、回答しやすい問い合わせの見直しや、調査品目の分類についての見直しを進め、アンケートで漏れのない回答を引き出せるよう調査項目を工夫する。

3 犯罪発生と防犯設備機器

刑法犯の認知件数は2002(平成14)年285万件をピークに毎年減少し、2018(平成30)年は、80万件台に減少しており、犯罪対策閣僚会議の取り組みが一定の成果となっていることは否めないが、まだまだ体感治安は厳しい状況である。

①刑法犯犯罪統計

- ・刑法犯犯罪認知件数と検挙率
- ・侵入犯罪の手口別認知件数と検挙率
- ・侵入窃盗の発生場所別の侵入口と侵入手段

4 建築着工統計

防犯設備機器の販売金額を客観的に比較するポイントとして、国土交通省総合政策局 情報政策課建設経済統計調査室の発行する建築着工統計を参考に客観的データを基に考察している。

①新設住宅着工戸数の推移

②非住宅着工床面積の推移

5 具体的考察

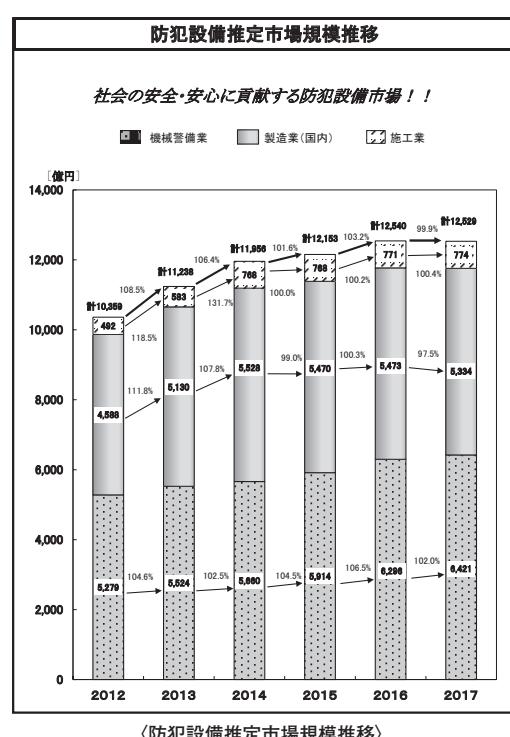
委員各位が担当分野を受け持ち、客観的なデータを基に3事業分野、6製造分野で市場分析をし、考察を加える。

①製造業、施工業、警備業

- ・防犯設備機器製造業
- ・防犯システム施工業
- ・機械警備業

②防犯設備機器製造業における品目別販売状況

- ・侵入者検知器
- ・監視装置
- ・生活情報システム
- ・出入管理装置
- ・映像監視装置
- ・一般防犯機器



6 日防設技術標準(SESE)の順守

統計調査報告書は、日防設発行のものであり、新年号への変更時期に係わり、西暦使用の統一方針が出されたことや語句数字、アルファベットなどがSESEに則り使用することとなり、委員一人一人が、勉強し、内容確認に細心の注意をはらった。

①SESEの順守

- ・長音のルール………固有名詞の対応
- ・アルファベットのフォント…全角、半角
- ・数字のフォント………全角、半角
- ・接続詞の仕様の仕方……漢字か、ひらがなか
- ・西暦と年号の並列表示……字数が大きく変わりレイアウト変更があり、容易ではなかった。

7 観察研修会

社会人として、人間形成や自己啓発に役立つことはもちろん、委員の視野識見の拡大を図るための観察研修会は、成田空港やFujisawaサスティナブル・スマートタウン、柏の葉スマートシティー等を間近で見ることができ、自己革新に役立った。

8 統計調査委員を体験してみての実感

①担当してみて感じたこと

- ・回収率が大きく伸びない…会員の意識改革を図る必要がある
- ・会員企業の担当者の受け止め方で、回答数字が大きく変わってしまう
- ・大分類、中分類、小分類の内容を丁寧に説明する必要があり、しかも点や面でとらえることも必要である。
- あらゆることを想定して、アンケート内容を示す必要があり、回答者ことを最も考慮することが大切である
- ・委員各位のやり甲斐や達成感は目標通りに「報告書」が発行できた時である

②担当してみて苦労したこと

- ・まっすぐ帰らないときは、データ書類は持って帰らない
- ・データ分析が1年前のものであり、国内外の政治・経済環境、会員企業の経営環境や防犯設備機器を取り巻く環境等を収集することが最大のポイントである
- ・1人の担当の考察について、事務局を含め7名が徹底的に検討し、厳しく指摘をし合うのが委員会の特徴である

9 まとめ

客観的表現を基本に、今年及び来年以降の天気が展望できる統計報告書を目指す。

①基本姿勢

- ・アンケートに基づく、データ分析
- ・様々な情報収集で正しい考察
- ・独禁法の遵守

②所感

- ・防犯設備業界が頑張っているのだと思える実感をお伝えしたい
- ・帰属意識の湧く魅力を伝える
- ・統計調査委員の参加者が増えることへの期待感の醸成